

平成 23 年度：公益信託地球環境保全フロン対策基金活用事例

1. 活動の概要

活動名	冷凍空調機器を対象とした「フロンの見える化」啓発活動（実施Ⅱ）
1. 活動の概要	<p>地球温暖化防止及びオゾン層保護に向け、社会生活のあらゆるところで活用されている冷凍空調機器に使用されている冷媒フロンの二酸化炭素換算値を冷凍・空調機器の表面の見えやすい部分に表示して、機器所有者や利用者だけでなく社会全体として、フロンの温室効果への注意喚起、冷媒フロンの大気排出防止及び廃棄される冷凍空調機器からのフロン回収促進活動。</p> <p>当協議会では既存の冷凍・空調機器にステッカーを貼付し、新設の冷凍空調機器には機器メーカーが製造段階でフロンの見える化ステッカーを貼付する役割分担をしている。</p>
2. 実施内容	<p>(1) 『フロンの見える化』運動のパートナーとして、冷凍空調機器メーカーのサービス部門が全て参加。又関連する冷凍空調機器の据付設備業者も一緒になって、点検サービス時に『フロンの見える化』ステッカー貼付を進めている。</p> <p>(2) 『フロンの見える化』実施場所：学校、病院、一般事務所、店舗、公共施設等多岐にわたっている。</p> <p>(3) 経済産業省、環境省の協力のもと 47 都道府県経由フロン回収登録業者へ『フロンの見える化』ステッカー提供</p> <p>(4) 外部団体との協調による『フロンの見える化』活動の周知 兵庫県フロン回収・処理推進協議会（平成 23 年 6 月 10 日） 愛知県フロン回収・処理推進協議会（平成 23 年 8 月 28 日） 山梨県冷凍空調保安協会（平成 23 年 11 月 1 日） 大阪府冷凍設備保安協会（平成 24 年 3 月 8 日）</p> <p>(5) 当協議会ホームページでの『フロンの見える化』パートナー募集と参加企業と貼付事例の紹介</p> <p>(6) ノンフロン冷凍機普及促進の為に『ノンフロンステッカー』を貼付して、ノンフロン冷凍機の差別化を実施 自主事業として、国の「ノンフロン冷凍機導入促進事業」と歩調合わせて推進 ノンフロンステッカー表示例・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 1</p> <p>(7) INFREP セミナーの開催 地球環境問題とフロン回収 ～冷媒フロンの回収と『フロンの見える化』～ 手元資料・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 2</p> <p>1) 基調講演：冷媒フロンの現状と今後の課題について 講演者 経済産業省 化学物質管理課 オゾン層等保護推進室 課長補佐 稲垣 勝地 様</p> <p>2) 『フロンの見える化』活動状況 講演者 <メーカーサービス部門> 東芝キャリア株式会社 環境・CSR 本部 参事 佐々木 美弥 様</p>

三洋電機産機システム株式会社 フィールドサポート統括部

黒岩 和幸 様

《機器施工会社部門》

日本冷凍空調設備工業連合会 業務部

副部長 大沢 勉 様

株式会社、池上冷熱

代表取締役社長 金子 宏 様

3) 日時及び会場

2月15日(水) 東京ビッグサイト 会議棟 7F

2月17日(金) 東京ビッグサイト 東展示棟 2ホール

4) 参加者

110名(冷凍空調機器所有者、業界団体、官庁、冷凍空調機器メーカー、機器メーカー代理店)

5) 結果のまとめ(セミナーでの意見及び評価)

- ・フロン基金の助成で作成した『フロンってなあに?』を開催に先立ち上映
冷凍・空調関係者の出席者が多かったが、改めて冷媒フロンの漏えいが地球の温暖化を通して異常気象等を誘発して、環境に悪影響を与えていることの認識が高まった(複数意見)
- ・今後の漏えい対策と新代替物質(ノンフロン機器)に期待する。
- ・メーカー及び設備業者の一層の参加がこの活動の成否を分ける。
- ・意識の高い参加者の中でも自社の冷媒フロンの充てん量把握が不十分なケースも見受けられた。
- ・講演者の説明に対して、活発な議論もあり、当初の目的は達せられたものと考えられる。
- ・一般には、フロン問題の知見、理解は非常に薄いものがあり、今後もこの種のセミナーの開催が必要と思われる。
- ・フロンの見える化ステッカー貼付数は大幅に伸びたが、フロン式冷凍機の市場ストックは1500万台を超える想定されており、更なる見える化等によるフロン大気放出抑制策が望まれる。

(8) フロンの見える化ステッカー貼付状況

	社数	室内・外用	環境宣言
メーカーサービス部門	15	41,965	23,149
施工会社	70	5,130	2,442
その他	5	12,000	700
計	90	59,095	26,291

(セットでの貼付数)

(9) 貼付事例

貼付数が多いので、添付資料で代表事例を紹介する

- ・東芝キャリア(株)『フロンの見える化』パートナー活動報告書 資料3
- ・各地域での『フロンの見える化ステッカー』貼付事例 資料4
- ・大型冷凍機器での『フロンの見える化ステッカー』貼付事例 資料5

(10) 国(経済産業省・環境省)及び県(フロン回収・破壊法担当部(局))との連携による

フロン回収業者に対する『フロンの見える化』事業の紹介事例

. 資料6

(11) フロンの見える化パートナー企業（（株）池上冷熱）によるフロンの見える化活動紹介

『宮崎県北ものづくり交流展 2011』

・・・・・・・・・・・・・・・・資料 7

(12) 年次計画に対する進捗

	室内外共
平成 23 年度貼付予定数	50,000 枚
平成 23 年度貼付数	59,095 枚

予定数に対して 118%

『フロンの見える化』活動の評価

(1) 貼付先での評価（機器所有者等）

- ・従業員がフロンの漏えいに注意するようになった。（多数）
- ・地球環境問題を気にしている、冷凍空調機器の冷媒フロンの温室効果が高い事を知っているが、何をしたらよいかわからなかったのが、大変参考になった。
- ・室内機の貼付をしなかった（室内機が埋め込みの為、貼付場所がない）が、今後も自分たちで出来ることは協力したい。
- ・店舗等では、来店客にはよく説明しないと誤解を受けるかもしれない。
（利益の為に、環境に悪い機器を使っていると思われる）

(2) 見える化パートナーでの評価（冷凍空調機器の施工、メンテナンス業者）

- ・貼付するごとに、フロンの漏えいが頭に残り、プレッシャーになった。
- ・冷凍機のフロン充てん量が正確に把握出来ないのが、据付時の試運転データがほしい。
- ・お客様に了解を得るが快く理解してくれるところもあるが、説明に時間を要することもある。
- ・貼付枚数が多い場合、事前に用意する必要があるが、事前に充てん量が分からないので結果として工数がかかる。

(3) 有識者での評価

- ・フロンの温室効果を広く社会に知らせる効果がある。（まだまだ認識が足りない）
- ・見える化ステッカーの貼付数・地域の拡大。
- ・冷凍空調機器の所有者が自分たちの環境対策の一つとして、自主的に貼付出来るような体制が望ましい。
- ・一般の人が気付くようにもう少しポスター等を併用した方がよい。
- ・公共施設（特に学校、市役所等）身近な施設での貼付拡大がPR効果も大きい。
- ・貼付数拡大には費用の限界もあるので、最大効果を上げる工夫が必要
例えば、参加者がネットで『フロンの見える化』実施状況を公表する等